

皮膚科

■診療科長 天野 正宏

■研修実施担当者 持田 耕介



教育施設として認定を受けている学会

日本皮膚科学会

診療科の概要

皮膚に生じる病態に対し臨床診断はもとより皮膚病理診断にも力を入れています。

治療においては軟膏療法など皮膚科特有の治療法のみならず外科的治療も積極的に行っています。

炎症性疾患はもとより自己免疫性水疱症、膠原病、また皮膚悪性腫瘍や皮膚悪性リンパ腫、熱傷では集学的治療を行い、「臨床」「手術」「皮膚病理」をやるのが宮崎大学の皮膚科との考えで臨床を中心に行っています。

研修症例の特徴

当科は宮崎県全域から多くの重症患者さんや希少な患者さんをご紹介頂くため、多彩な幅広い皮膚疾患を経験できます。

特に皮膚悪性腫瘍や皮膚悪性リンパ腫、とくにATLLの患者さんが多いこと、また重傷熱傷を経験できるのも当科の特徴と思います。

研修目標

【一般目標 (GIO)】

皮疹は時間とともに変化します。五感を中心に、立体的・経時的に判断できるようにトレーニングをする。

【個別行動目標 (SB0s)】

- 直感に頼らず真菌直接鏡検、ギムザ染色、皮膚生検など体を動かして、診断する能力をつける。
- 問診を丁寧に何度でも繰り返して、情報を整理する。
- 病態を把握し、それに沿った、適切な治療を選択する。

研修方略

【指導医および指導体制】

上記のような多彩な皮膚疾患の患者さんの「主治医」として研修をして頂きます。

指導は病棟医長を中心に、いろいろな立場の先生からの指導を受ける体制です。「主治医」は医師としての責任を学ぶことができるとともに、「やりがい」があります。

カンファレンスは入院外来患者検討、手術検討、病理組織検討と長い時間費やします。しかしこれは医師としての成熟に欠かせないもので、ひいては「患者さんのため、最高の医療を」ということです。自分の患者さんだけでなく、受け持ち以外の患者さんについても学べ、力がつきます。

【勉強会やカンファレンスなどの研修教育活動】

月曜：回診の後、病棟・外来の症例を1例ずつ丁寧に検討
最近のトピックスを中心に英語の論文を吟味します

【週間スケジュール】

	午前	午後
月	教授総回診	総カンファレンス、抄読会
火	手術	手術
水	外来	病棟処置
木	手術	手術
金	外来	病棟処置、教授回診

研修評価

- オンライン卒後臨床研修評価システム（EP0C）による研修実施内容の評価（観察記録）
- 患者さんは多くの事を教えてくれます。患者さんからどう評価されているかを大切にします。

指導医・先輩医師からのメッセージ

皆さんは今後何らかの形で皮膚疾患・症状と関わりを持つこととなります。なぜならまず”診る”臓器だからです。従って皮膚は総合診療においても primarily に診断に欠かせない情報を与えてくれるでしょう。

皮膚科的 skill を向上させるため少しでも多くの疾患を経験できる環境を用意します。アンテナを磨いてご参加ください。

